

日本消防



● 第20回ヨーロッパ青少年消防オリンピック

9
2015

□ 絵 第20回ヨーロッパ青少年消防オリンピック 平成27年7月20日～25日 於 ポーランド
 第22回全国女性消防操法大会審査員研修会 平成27年9月3日(木)～4日(金) 於 横浜市消防訓練センター

巻頭言 「地域防災力の向上に向けた消防団の役割」	…… (一財)鹿児島県消防協会 会長 諏訪義則	… 1
日消の動き 「消防団一層充実のための平成28年度施策(要望)」	…… (公財)日本消防協会 会長 秋本敏文	… 3
第20回ヨーロッパ青少年消防オリンピックに出場	…… (公財)日本消防協会	… 4
第22回全国女性消防操法大会を開催	…… (公財)日本消防協会	… 10
特別表彰まといを受章して「伝統を後世に引き継ぐ」	…… 長崎県雲仙市消防団 団長 川上清記	… 12
東西南北(三重県)「地域消防力の充実と伊勢志摩サミットにむけて」	… 志摩市消防団 団長 山下三男	… 14
東西南北(東京都)「災害に強い 安全なまち 葛西」	…… 葛西消防団 団長 吉田敏夫	… 16
東西南北(岡山県)「地域防災力強化のために」	…… 里庄町消防団 団長 大内哲夫	… 18
東西南北(福岡県)「市民と力を合わせて郷土を守る消防団」	…… 田川市消防団 団長 大澤俊朗	… 20
シンフォニー(群馬県)「私と消防団活動」	…… 伊勢崎市消防団 第1方面隊 第12分団 団員 原田 瞳	… 22
シンフォニー(岐阜県)「女性消防団員としてできることは・・・」	…… 北方町消防団 団員 鳥本千明	… 24
平成27年度少年消防クラブ交流会(全国大会)を初めて開催	…… (公財)日本消防協会	… 26
世界遺産を守る消防団～20年の誇り～	…… 岐阜県白川村消防団	… 32
全国消防殉職者理事会を開催	…… 全国消防殉職者遺族会	… 34
第44回全国消防救助技術大会について	…… (一財)全国消防協会	… 35
e-カレッジによる防災・危機管理教育のお知らせ	…… 総務省消防庁地域防災室	… 38
事業所の消防団活動への理解と協力について	…… 総務省消防庁地域防災室	… 39
敬老の日に「火の用心」の贈り物「住宅防火・防災キャンペーン」	…… 総務省消防庁予防課	… 40
2016年度「全国統一防火標語」の募集について	…… 総務省消防庁予防課	… 41
危険物施設等における事故防止	…… 総務省消防庁危険物保安室	… 42
消防団協力事業所表示証(市町村マーク)を販売	…… (公財)日本消防協会	… 43
うちの名物団員	……	… 44
消防団の広場(愛知県)「女性消防団員が県操法大会出場に向けて」	…… 瀬戸市消防団 深川分団 分団長 松原良樹	… 46

編集後記

表紙写真説明

「天空からの志摩市賢島の風景」

撮影者：松本 高正（志摩の鳥人と言われた松本氏がパラグライダーより撮影）

来年5月に日本において開催される主要国首脳会議（サミット）の会場が、三重県の伊勢志摩地域に決定されました。

（三重県志摩市）

第20回ヨーロッパ青少年消防オリンピック

平成27年7月20日～25日 CTIF2015 OPOLE POLSKA



第22回全国女性消防操法大会 審査員研修会

平成27年9月3日(木)～4日(金) 於 横浜市消防訓練センター



地域防災力の向上に向けた消防団の役割

(一財)鹿児島県消防協会 会長 諏訪 義則



鹿児島県は、我が国の西南部・九州の南端に位置し、その広がり、東西約270km、南北600km、総面積が9,166.58km²、九州本土に属する薩摩、大隅の2大半島及び長島、甌島、南西に延びる種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島等の島しょからなり、また、2,632kmに及ぶ海岸線も特徴であります。

また、本県には全国に存在する110の活火山のうち、11の活火山があり、本土は火山噴出物である火山灰、いわゆるシラス層の丘陵台地が幅広く拡がり、平野に乏しい地形となっております。

このような地勢をもつ本県は、他の県に比較して台風や大雨による災害に弱く、河川の氾濫、土石流やがけ崩れ、地すべり、高波などによる被害に見舞われやすく、これまでに多くの尊い人命や財産が失われてきました。

そしてまた、活発な噴火、爆発を繰り返している桜島、鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島連山の新燃岳、口永良部島、トカラ列島の火山活動にも注意していかなければなりません。

2015年5月29日 晴天の下、鹿児島県消防学校で県下20の消防職員が競う消防救助技術指導会が開催されていきました。開会して間もない9時59分屋久島町口永良部島新岳が噴火したとの情報、10時07分、気象庁は噴火警戒レベルを3（入山規制）から5（避難）に引き上げ、10時20分、屋久島町は住民へ島外への避難指示との情報を受け消防救助技術指導会も即刻中止となりました。島内8地区の住民及び在島中の137名の全島避難は避難指示から6時間余で完了しました。この間、屋久島町消防団はもとより、消防、警

察、自衛隊、海上保安庁など関係機関が連携して、住民の避難誘導、救助活動、残留者の確認等にあたられました。関係者からは全員無事、また早く避難できたことは住民のかねての防災意識、緊急時の対応、地元消防団員的確な避難誘導等によるものであったと聞いています。いまなお、避難生活の続く皆さんの1日でも早い帰島を願うばかりであります。

また、今年は、土砂災害により105名の死者、行方不明者を出した1993年夏の豪雨を超える月間雨量を記録しましたが、1名の死者もなく梅雨があけました。

このことは、行政による防災減災対策が進んだこと、早めの避難勧告はもとより、住民の防災意識が向上し、自らの判断で早めの避難行動をとられていることが、被害軽減につながっているのではと思っております。秋の台風シーズンにおいても早めの防災対策、避難により人的・物的被害のないことを願っております。

さて、私の住む、長島町は本県の最北端に位置し、平成18年東町と長島町が合併し、「ひと



つの長島」として誕生しました。本島、伊唐島、諸浦島、獅子島の4つの有人島と大小23の島々が点在し、限りなく青い海と温暖な気候の中で漁業と農業が盛んな自然も人も豊かな町です。平成18年の合併で11分団335人となり平成19年4月に11分団295人に再編し、今年4月には本部に女性団員を配置するため、10人増員し11分団305人となりました。現在団員は304人でほぼ充足しております。

消防団の活動は、「地域と一体となった活動」を原則としており、毎年7月に開催する町消防操法大会に向けた訓練は、港や地域の公園等を利用することで、毎日地域の皆様に見学していただける環境で実施しています。昭和30年代に集落のほとんどを焼失する火災を2回経験してから、消防団の活動は「火を消す」ことではなく、「火事を起こさない」ことが最大の責務であると全団員に徹底しており、年末年始の警戒や不定期の特別警戒など1年を通して火災予防活動に力を入れています。また、地元小学校の運動会には、全分団が「消防団」として参加し、小隊訓練やポンプ操法を披露するなど、消防団の周知に努めております。

日頃、災害多発県である本県においては、消火活動や捜索活動はもとより自然災害発生時の活動など消防団の活動機会が多く、特に過疎地でお年寄り世帯の多い地域にあっては消防団の役割は非常に大きいものがあります。しかし、消防団の役割が多様化し消防団に対する期待は大きいにもかかわらず、消防団員数は、15,618人（平成26年10月1日現在）となっており、他県と同様の減少傾向にあります。原因はいろいろ挙げられています。その対応策の一つとして女性団員の入団促進を図ることに取り組んでおります。女性団員は年々増加しており、現在368名（平成26年10月1日現在）となっております。全団員に占める割合は約2.36パーセント、全国平均2.57パーセントに比べると若干下回りますが、5年前（185名）に比べると2倍となっ

ております。防火予防等の広報はもちろん、独居老人、高齢者宅の訪問による防火指導、安全確認など女性消防団員の果たす役割がますます大きくなってきております。毎年、県下女性団員が一同に会する女性団員研修会を開催しておりますが、活動事例、活動内容をそれぞれ発表し、意見を交換しながら研鑽に努めております。年を重ねるごとに内容も充実し、地域の要として信頼される存在となっております。

今後、シャワー・トイレ等設備の充実など女性消防団員が活動しやすい環境整備も必要となります。

消防団員の約65%が被雇用者となっております。事業所（雇用者）に協力も求めるだけでなく、団員の能力や希望に合わせた業務の選択、訓練、災害活動への参加義務の一部免除等、地域の実情に応じて消防団員の任務を弾力化する活動しやすい環境づくりも必要となっております。加えて、消防資機材の軽量化も進んでいることから、平日昼間の災害等に備え、元気なOB団員の出番も必要な時期が来ているのではと思います。

平成25年12月、消防団関係者の熱意と国会各党派の皆様のご理解で、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が全会一致で成立しました。

この法律の名のとおり、消防団は地域防災力の中核として位置づけられました。早速、装備の改善、待遇の改善等様々な充実強化策が講じられているところであります。今後、地域の課題には、住民、自主防災組織、消防団、市町村等が適切に役割分担をしながら相互に連携協力して取り組むことが地域の安全、災害の予防、災害発生時の被害軽減につながるものと確信しております。

日常、災害が発生した場合、即時に対応することができる消防団がこれまで同様、地域の中核として、信頼され、貢献できればと思っています。

「消防団詰所の赤い灯に住民がほっとする」地域づくりに役立つ消防団へ

消防団一層充実のための平成28年度施策(要望)

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

いわゆる消防団新法が制定されてから、平成27年度は実質初年度だということで、皆さんご尽力頂き、今年度は装備の改善等がかなり進んだと思いますが、もう安心というところまではとてもないでしょう。ですから平成28年度も気持ちをゆるめることなく、いやむしろこの流れを拡大発展させなければならないように思われます。

そこで、日消では、9月10日の理事会で、「消防団一層充実のための平成28年度施策」という国への要望を決定しました。詳細は、本文をご覧頂かなければなりません、いくつかのポイントを申し上げます。

前文では、総務省消防庁もがんばって28年度の予算要求をしてくれていますので、その満額確保にご尽力頂きたい旨を申しました。

本文は、二つに分かれています。最初に消防団自身の充実のための施策等です。消防団の活動やその重要性を国民の皆さんにもっとよく知って頂くためのいろいろなPRをして頂くこと、装備等の改善がもっと進むような財政措置の充実、消防団員確保促進のための消防団協力事業所に対する税制等の措置、地方交付税の消防団関係経費に対する算定方法の改善等、これまでも申し上げていることを中心に重ねて要望しています。

今回の要望の特徴は、二つ目、「消防団が中核となる地域防災力の強化」にあると思います。一昨年成立の新法は、地域にあっては消防団が中核となって地域の総力を結集する地域防災力の充実強化を進めることとしています。これは、最近のさまざまな災害経験から、国民の皆さんの生命財産を守るために必要なことですが、同時に、これを進めることは、消防団の重要性を国民の皆さんによく承知して頂くことにつながるでしょうし、装備等の改善を進めやすくし、消防団の活動環境の改善等にもつながっていくと思われれます。そこで、このような項目を立てることとしたのですが、具体的な活動に関連して主として二つのことを申し上げます。まず、地域防災力の充実強化のためにはいろいろな取組みが必要と思われるのですが、それらについて全体的なプログラムを示し、これを着実に実行すること、もうひとつは、地域の具体的な活動目標として地区防災計画を作成することとして、これが実行しやすくなるような情報提供をすることです。これらの実行については、消防団としてもできる限りの対応が必要になり、ご苦心ご苦勞が多くなるだろうと思いますが、これらは将来のプラスになると思われれますので、消防団の皆さん、よろしく願います。

第20回

ヨーロッパ青少年消防オリンピックに出場

(公財)日本消防協会

少年消防クラブの育成支援は、将来の消防防災を担う人づくりとしても重要です。そこで、本年7月、CTIF（ヨーロッパ各国を中心とする国際消防救助組織）が、ポーランドで開催の青少年消防オリンピックに日本からも少年消防クラブメンバーを派遣しました。

大会では、ヨーロッパ各国青少年と競い合い、素晴らしい交流を深めることができました。この成果をこれからの我が国の少年消防クラブの、そして日本消防の益々の発展に活かしてまいります。

○ヨーロッパ青少年消防オリンピック

主催：CTIF（ヨーロッパ中心の国際消防組織：日本も参加）

開催期間：平成27年7月20日から25日まで

競技：消防障害物競技と400m障害リレー

交流：日本ブースの展示や「お国自慢大会」、ゲームオリンピックなどの交流イベント

○日本チームの総合成績

参加23カ国、45チーム中

・Japan1：26位

・Japan2：32位

不慣れなヨーロッパ仕様の消防資器材が使われる中、日本チームは大健闘しました。各国から驚きの声があがりました。上位入賞国チーム

1位：ポーランド 2位：オーストリア

3位：イタリア

○日本から参加した少年消防クラブ

- ・埼玉県三郷市 三郷市少年消防クラブ
- ・東京都日野市 日野消防少年団
- ・徳島県鳴門市
うずしお少年少女消防クラブ
- ・沖縄県伊平屋村
伊平屋村少年消防クラブ

○国際交流

交流イベントとして開催された参加国ごとの展示会において、「折り紙」の実演や「うちわ」の配布を行った日本ブースが大人気になり、大勢の方々が殺到しました。また、参加国による「お国自慢大会」では少年クラブメンバー全員で阿波踊りを披露し、地元住民や各国の参加者から称賛の嵐を浴びました。

開会式の模様



開会式会場に到着した日本チーム



ポーランド国旗入場



開会式で入場する日本チーム

併せて行われた参加国展示会



日本紹介の展示ブース



日本展示ブースでは折り紙、うちわが大人気

競技の様様



大会会場



秋本会長からの激励



各国の選手とお互いの健闘を誓い合う



応援の様子



日本チームと秋本会長をはじめとする日本からの応援団

○消防障害物競技



スタート前にチームの紹介をします



手押しポンプで的をねらいます



最後は整列、指揮者の合図

○400m障害リレー



2 mののぼり壁を越えます



バトンは筒先です



最後は筒先をホースにつないでゴール

ラグーオリンピック



22種類のゲームを行いました



泥だらけになりながら、楽しんで行いました

大会エクスカージョン



JURA PARKに到着



ガイドさんの説明を聞く選手達

お国自慢大会



各国伝統文化披露 日本は阿波踊りを披露し、各国から拍手喝采を浴びました

閉会式の模様



退場行進



整列する日本チーム



CTIF2015 Opole Polska

※オリンピックの様子は、日本消防協会ホームページでもご覧いただけます。

第22回全国女性消防操法大会を開催

(公財)日本消防協会

○開催日時 平成27年10月15日(木)
午前9時00分(雨天決行)

○開催会場 横浜市消防訓練センター
(神奈川県横浜市戸塚区深谷町777番地)

1 目的

女性の消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的とする。

2 主催

消防庁、公益財団法人 日本消防協会

3 協力

神奈川県
横浜市
公益財団法人 神奈川県消防協会
横浜市消防局
藤沢市消防局

4 出場隊

都道府県消防協会が推薦する女性の消防隊(消防団を含む)とし、出場隊は1隊7名とする。

5 消防操法

第22回全国女性消防操法大会操法実施要領に基づき、次により実施する。

軽可搬ポンプ操法

- (1) 5人操法
- (2) 手びろめによる二重巻ホース1線延長(ホース3本)
- (3) 標的を使用し、放水を行う
- (4) 収納は省略

6 使用機械器具

D-I級軽可搬ポンプ一式(日本消防協会仕様の二輪台車付)

7 表彰

- (1) 優勝 1隊
(内閣総理大臣賞・日本消防協会会長賞)
- (2) 準優勝 2隊
(消防庁長官賞・日本消防協会会長賞)
- (3) 優秀賞 3隊
(日本消防協会会長賞)
- (4) 優良賞 6隊
(日本消防協会会長賞)
- (5) 優秀選手賞 10名
(日本消防協会会長賞)

8 出場順

出場順	第 1 コ ー ス		第 2 コ ー ス	
	本 部 席 側		応 援 席 側	
	都道府県	消 防 隊 名 称	都道府県	消 防 隊 名 称
1	愛 知 県	大口町女性消防隊	沖 縄 県	うるま市女性消防隊
2	神 奈 川 県	横須賀市女性消防隊	高 知 県	須崎市女性消防隊
3	石 川 県	白山市出城女性消防隊	長 崎 県	佐世保市女性消防隊
4	秋 田 県	大仙市女性消防隊	佐 賀 県	嬉野市女性消防隊
5	茨 城 県	常総市女性消防隊	鳥 取 県	三朝町女性消防隊
6	島 根 県	安来市女性消防隊	広 島 県	東広島市女性消防隊
7	群 馬 県	前橋市女性消防隊	京 都 府	京都市左京女性消防隊
8	和歌山県	和歌山市女性消防隊	新 潟 県	魚沼市女性消防隊
9	三 重 県	明和町女性消防隊	長 野 県	大桑村女性消防隊
10	山 口 県	下関市女性消防隊	滋 賀 県	竜王町女性消防隊
11	東 京 都	新宿女性消防隊	青 森 県	五所川原市女性消防隊
12	愛 媛 県	西条市女性消防隊	岡 山 県	玉野市女性消防隊
昼 食				
13	奈 良 県	五條市女性消防隊	富 山 県	小矢部市女性消防隊
14	大 阪 府	東大阪女性消防隊	福 岡 県	福岡市早良女性消防隊
15	埼 玉 県	鴻巣市女性消防隊	北 海 道	遠軽町丸瀬布女性消防隊
16	福 島 県	田村市女性消防隊	鹿 児 島 県	和泊町女性消防隊
17	熊 本 県	八代市女性消防隊	岩 手 県	盛岡市女性消防隊
18	宮 崎 県	延岡市女性消防隊	岐 阜 県	七宗町女性消防隊
19	静 岡 県	三島市女性消防隊	山 形 県	大石田町女性消防隊
20	山 梨 県	甲州市女性消防隊	宮 城 県	登米市女性消防隊
21	兵 庫 県	南あわじ市女性消防隊	福 井 県	勝山市女性消防隊
22	香 川 県	土庄町女性消防隊	徳 島 県	鳴門市女性消防隊
23	千 葉 県	柏市女性消防隊	大 分 県	佐伯市女性消防隊
24	栃 木 県	小山市女性消防隊		

第21回全国女性消防操法大会の様子





特別表彰「まとい」を受章して ——

「伝統を後世に引き継ぐ」

長崎県雲仙市消防団 団長 川上清記



1 はじめに

平成27年3月10日、日本消防会館で開催されました「第67回日本消防協会定例表彰式」において、昭和54年度に創設され格式と伝統、そして消防団として最高榮譽である日本消防協会特別表彰「まとい」を雲仙市消防団が受章させていただきました。

この表彰は全国消防団の中から毎年度、10団体に限り授与され、我が長崎県においても過去に5つの消防団しか受章しておらず、この榮譽ある表彰を受章できたことは、雲仙市消防団といたしましてはこのうえない喜びと誇りであります。

これもひとえに、市民の皆様への消防団に対するご理解とご協力、そして雲仙市消防団発足以前から、脈々と受け継いできた旧7町の消防団の伝統と実績の賜であると深く感謝申し上げます。

2 雲仙市の紹介

雲仙市は、平成17年10月11日、旧国見町、瑞穂町、吾妻町、愛野町、千々石町、小浜町、南申山町が合併し誕生した人口43,907人の長崎県島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置したまちです。北岸は有明海に、西岸は橘湾に面し、地勢は雲仙山系の険しい山地と、それに連なる丘陵地及び海岸沿いに広がる平野部からなり総面積214.27km²で、長崎県全体の



特別表彰まとい受章式

5.0%を占めています。

雲仙市の位置する地域は、橘湾や有明海を望む美しい海岸線や、普賢岳、雲仙地獄といった雄大な自然環境を有しており、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園に指定されています。

3 雲仙市消防団について

雲仙市消防団は、平成17年10月11日の市町村合併に伴い7つの町の消防団が統合され「雲仙市消防団」として発足し、7支団、64分団、定数1,652名で組織しています。実団員数については平成27年4月1日現在1,526名（対前年度比:17名増）であり、全国的に消防団員が減少傾向にある中、微増ではありますが、平成24年度から増加傾向にあります。

なお、この受章と併せ、平成25年12月に施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に基づ

き、関係機関と連携を図りながら公務員と女性消防団員の積極的な入団促進を図り、平成27年4月1日付けで、女性消防団員10名が入団し、平成29年度から本格的に活動が出来るよう育成を図っているところです。公務員の団員については現在121名が入団しており、団員増の要因の一つでもあります。

また、消防団活動については、火災や風水害時などにおける災害活動はもとより、年間活動計画に基づき各種訓練や消防学校入校、消防ポンプ操法大会等を実施すると共に、長崎県消防ポンプ操法大会にも毎回2チームを出場させ、消防技術の向上と士気の高揚を図っています。

4 おわりに

特別表彰「まとい」の「ま」は、守る消防団の「ま」、「まとい」の「と」は、尊い消防精神の「と」、「まとい」の「い」は一致団結する消防団の「い」であり、これらを繋ぎ合せて「まとい」と表していると、わたくし自身独自の思いを持たせて頂いています。



長崎県消防ポンプ操法大会

この荣誉ある受章を機に、雲仙市消防団はさらに気持ちを引き締め「自分たちの町は、自分たちで守る」の郷土愛を胸に、一致団結して消防団活動に専念し、この伝統を後世に引き継げるよう努力してまいります。

結びに、今回の荣誉ある受章にあたり、特段のご配慮を賜りました日本消防協会、長崎県消防協会をはじめ、消防関係機関各位の皆様には厚く感謝を申し上げます、受章の挨拶とさせていただきます。



女性消防団員訓練



幹部教養訓練



「地域消防力の充実と 伊勢志摩サミットにむけて」



志摩市消防団 団長 山下 三男

1 志摩市の紹介

志摩市は平成16年10月に志摩町・大王町・阿児町・浜島町・磯部町の旧志摩郡5町が合併して誕生した三重県の東南部に位置するまちで、市全域が伊勢志摩国立公園に含まれています。

優美なりアス海岸を誇る真珠のふるさと「英虞湾」や的矢かきで有名な「的矢湾」を有し、伊勢えびや鮑、あおりふぐやおおさ海苔など豊かな里海によって育まれた魚介類が多くあり、古くから「御食つ国」として知られ、海女漁も盛んな地域であり、このたび、平成28年5月開催の主要国首脳会議「伊勢志摩サミット」の開催地に決定しました。

2 志摩市消防団の概要

市町村合併に伴い、旧志摩郡5町にあった消防団が合併し、5方面隊、36分団、20支団、団員数913人(条例定数953人)で平成16年10月1日に発足しました。

平成27年4月からは組織と団員数の見直しを行い、5方面隊、32分団、20支団、団員数816人(条例定数860人)で活動を実施しております。

装備については、日本消防協会から寄贈された多機能型消防車を含む、ポンプ自動車2台、小型動力ポンプ付積載車63台、消防船1隻を配備し、沿岸部から山間部までの広範囲にわたる災害に備えております。



出初式一斉放水

3 志摩市消防団の活動

志摩市消防団の主な活動としては、毎年1月4日に実施される出初式から、4月には新入団員の入団式、7月には夏期訓練、11月の防火パレード、12月には冬期訓練と年末夜警を実施しており、また各分団・支団単位での普通訓練と月1回以上の機械器具の点検を行っております。

通常の火災・風水害対応はもとより、近年発生が危惧されている南海トラフ地震に対する避難誘導や救助訓練、傷病者に対する応急手当や心肺蘇生法など消防団員に対する役割が増える中、団員は積極的に訓練に参加し、技術と知識の向上に努めております。



出初式一斉放水

4 消防団の活動

消防団の主な活動は1月の出初式を皮切りに、春・秋2回の総合訓練や毎年6月に行われる南佐久郡ポンプ操法・ラッパ吹奏大会に向けた訓練のほか、12月の年末特別警戒や火災予防週間中の火災予防パレード、高齢者宅の訪問などの火災予防活動を実施しています。

春の総合訓練では消防団全体で階級ごとに規律訓練を行い、各階級で必要とされる訓練礼式の修得に取り組んでいます。また、秋の総合訓練では機械取扱訓練や応急手当訓練を分団ごとに実施しています。

これまでは災害活動技術の向上に重きを置いていましたが、消防団員の公務災害防止についても訓練を実施する必要があると感じ、今年度は消防団員の公務災害防止のため消防基金の事業を活用し、班長以上の幹部を対象にS-KYT(消防団危険予知訓練)研修を実施しました。

大きな声での指差呼称や消火活動中の一画面にどんな危険が潜んでいるかをチームで考え、話し合うことによって新たな発見をしたり、現場で注意すべきことを認識したりする良い機会だったと感じています。

5 おわりに

消防団は地域に密着した、住民に一番近い公共機関であり、住民の生命と財産を守るといふ崇高な使命の下、一致団結し災害の防御にあたること、また、普段の団員としての生活から住民の方々に啓発活動を実施することで、住民



防災ヘリとの訓練

の災害意識を向上させ、災害時の被害を最小限のものとするよう、予防や啓発活動にも力を入れております。

しかしながら、東日本大震災から4年が経過し、発生直後の危機感も薄れつつあるように感じられます。団員の活動と安全確保は、常に危険が伴う現場では判断が難しい事が多く、未曾有の災害となれば、団員の個々の判断が最も重要となります。

こういった場面に遭遇した場合に落ち着いて自らの安全の確保と団員としての活動ができるよう、訓練や研修を重ねて日々活動していきたいと考えています。

また、サミットの開催地と決定して以降、メディアに取り上げられる事も増え、ふるさと応援寄付の件数も増加するなど注目度が増しており、今後は観光客の増加も見込まれております。志摩市消防団としては、地域住民の安心安全な生活を守ることはもちろん、この地を訪れていただく観光客の方々にも安心してこの地で過ごしてもらえよう、一致団結し活動していきます。



消防庁貸付車両



心肺蘇生



「災害に強い 安全なまち 葛西」



葛西消防団 団長 吉田 敏夫

1 葛西地区紹介

葛西地区は、東を千葉県に接し、南を東京湾に臨む東京都の東南端に位置しています。もともと農・漁業を中心とした半農半漁地帯でしたが、昭和44年の地下鉄東西線の開通を機に、葛西沖の大規模埋立事業が始まりました。また、南部地区の南葛西・臨海町・清新町には、高層共同住宅を含めた住宅団地や大規模な倉庫事業所が多くを占め、

アーバンリゾートとしての街づくり構想のもと、都心のベットタウンとして発展してきました。平成元年6月、東京湾の南端の海辺沿いに「臨海公園」が建設され、同年10月には「東京都葛西臨海水族園」が完成、平成13年3月には葛西臨海公園内に当時日本第1位の規模である「大観覧車」が建設されました。

2 葛西地区紹介

葛西消防団は、平成12年8月16日に江戸川消防団から分離独立し、発団から15年と都内では一番新しい消防団です。全分団（8個分団）に計12台の可搬ポンプ積載



葛西消防団

車が配置され、東京23区内でも有数の機動力を生かして、火災をはじめとした様々な災害活動、警戒活動、防災指導など、多岐に渡る任務にあたり、生業の傍ら地域の安全・安心を守るため日夜努力を続けています。特に、葛西地区は旧江戸川をはじめ荒川、中川、新川等の大小河川が縦横に流れ、いわゆる海拔ゼロメートル地帯が管内の約8割を占めていることから、東北地方太平洋沖地震発生に際しても、各団員が早期に分団本部施設に参集し、津波警報が発令された東京湾沿岸部の情報収集や広報活動を実施しました。

3 消防団の活動

「災害に強い 安全なまち 葛西」を目指し、消防団員としての知識・技術の向上を図るため、江戸川区合同水防訓練、総合防災訓練、震災消防訓練、資器材取扱訓練、新入団員教育訓練、規律訓練等を実施し、団員一人一人が意欲を持って団務に精励しています。

また、高校生を対象とした「命の尊さ講座」、小中学生を対象とした救命入門コース等に指導員として積極的に参加し、総合防災教育にも力を入れ、地域防災力の向上に努めています。

さらには、消防団員の充足に向けて「団員一人あたり二人以上への声かけ」をスローガンに、受け持ち分団の戸別訪問を行うとともに、管内の駅舎、大型店舗、各種イベント等あらゆる場面で消防団活動について広報し、地域に根差した団員募集活動を進めています。

平成27年1月には江戸川区南部地域の防災拠点として、発災時の災害対応機能を備えた「葛西防災公園」が完成しました。6月にはその「葛西防災公園」において、葛西消防団操法大会を実施し、当日は多く



資器材取扱訓練

の地域住民にもご来場をいただきました。我々消防団が地域に根差した組織であること、そして、地域の防災意識の高さを改めて実感し、団員一人一人が葛西地区の人々のため、町のために一丸となり邁進していくことを改めて誓った一日となりました。

4 終わりに

東日本大震災をはじめとする巨大地震、ゲリラ豪雨、大型台風等を経験し、大規模な自然災害の発生が危惧される昨今、地域住民の防災に対する意識が日に日に高まっている中で、我々消防団にも活躍が期待されているところです。江戸川区当局及び葛西消防署と積極的な連携を図り、地域に密着した防災機関として皆様のご期待に応えるべく「災害に強い 安全なまち 葛西」を目指し、災害活動はもとより防火防災指導、警戒活動など地域の防災リーダーとして一致団結し、強い使命感を持って全力で取り組んでまいります。



葛西消防操法大会



「地域防災力 強化のために」



里庄町消防団 団長 大内 哲夫

1 里庄町の概要

里庄町は、岡山県の南西部に位置し、東は浅口市鴨方町、西は笠岡市、南は浅口市寄島町に接し、岡山市から直線距離で約35km、倉敷市から約20km、広島県福山市から約20kmのところに位置しています。総面積は12.23平方キロメートル、人口は11,119人、世帯数は4,323世帯となっています。(平成27年6月30日現在)

当町の人口は、町制を施行した昭和25年において7,441人で、その後、水島と福山の工業地帯の中間に位置する地理的条件や町の中央部を東西にJR山陽本線、国道2号が走るなど交通条件に恵まれていたことから昭和60年には10,071人と1万人を超え、その後25年間にわたり1万人台で人口を維持し、近年では1万1千人前後で推移しています。



幼年消防クラブ

年間平均気温は16℃前後、年間平均降水量は1,100mm程度で、瀬戸内海地方特有の温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、四季折々に彩る花や木が訪れる人の心を和ませています。また、耕作放棄地を活用した「まこもたけ」の栽培を積極的に行い、特産化に向けた様々な取り組みも行っています。

2 消防団の組織

里庄町消防団は、昭和25年6月1日の町制施行に伴い、「里庄村消防団」から「里庄町消防団」へ改称されました。また、平成18年5月1日には分団制を導入し、現在、1本部2分団13部、団員258人(定数268人)で組織されています。消防車両は、指令車1台、消防ポンプ自動車1台、積載車14台を配備し、



仁科芳雄博士生家



操法訓練



操法訓練大会

各々が管理運用しています。

3 消防団の活動状況

里庄町消防団の主な行事は、4月の消防団入退団式から始まり、8月の里庄町夏まつり、9月の町体育大会の警備、10月には消防操法訓練大会を行い、11月の火災予防運動期間中には、町内防火パレードを実施しています。また、12月には婦人防火クラブ員、地域の方や子供会とともに年末夜警を実施しています。1月には一般観覧席を設けて消防出初式を開催するなど、あらゆる機会を通じて消防団と町民の交流を深め、地域コミュニティの活性化を図っています。

そのほかにも、毎月の無線テスト、資機材点検、放水訓練などの定期訓練や常備消防と合同による文化財防火訓練や林野火災訓

練を実施し、有事の際の連携体制の確立に努めています。

4 おわりに

消防団は、地域住民を中心とした組織として、幅広い防災力と地域コミュニティとの連携を強みに、地域防災体制の中核的存在として地域住民の安心・安全の確保のために活躍しています。我々消防に携わる者への住民からの期待が益々高まる中で、これからの防災体制強化のためには、常備消防と連携を図りながら、消防団が中心となって、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般住民の皆様が一体となった総合的な地域防災力を充実させることが肝要です。その一端を担うべく、日々努力してまいりたいと思います。



林野火災訓練



岡山県消防団活動支援自販機



「市民と力を合わせて 郷土を守る消防団」



田川市消防団 団長 大澤 俊朗

1 田川市の紹介

田川市は、東を香春岳、西を船尾山、そして南を主峰である英彦山の三方を囲まれた盆地であり、英彦山を源とする中元寺川と彦山川の2本の川が流れております。

古代から信仰と文化の交流地帯として栄え、明治末期から良質な石炭を豊富に産出し、日本近代化の原動力として発展してきた「炭都」であり、「月が出た出た月が出た」でおなじみの炭坑節発祥の地です。

また、平成23年5月、生粋の炭坑労働者・山本作兵衛氏の炭坑記録画および記録文書がユネスコの世界記憶遺産に登録されるといふ日本初の快挙を果たしたまちとしても有名で、登録された「山本作兵衛コレクション」697点のうち、炭坑記録画、日記等627点を田川市石炭・歴史博物館が収蔵しています。

次に紹介いたしますのは、田川市を代表するB級グルメ「田川ホルモン鍋」です。田川ホルモン鍋とは、焼き肉のタレで下味をつけたホルモンと大量の野菜を、独特の形の鉄板で炒めたご当地グルメです。また、コラーゲンがたっぷりであることから女性にも大変人気です。

このように田川市は、近代日本の経済成長に大きく貢献した、歴史と伝統文化が息づく



2市1町防災訓練

魅力あふれるまちです。また、ここで紹介しきれなかったお勧め観光スポットもたくさんございます。ぜひ一度お越しいただき、田川市の魅力に触れてください。

2 田川市消防団の概要

田川市消防団は、団本部、18分団で構成され、定員300名に対し、実員282名で市民約50,000人を災害から守っています。団員数は近年横ばいとなっており、消防団協力事業所表示制度の活用や、地元行政区等の協力をいただきながら団員確保に努めています。消防車両等の装備については、団本部広報車1台、防災活動車1台、消防ポンプ自動車4台、小型動力ポンプ付積載車14台、消防活動用2輪車3台を配備しています。

3 田川市消防団の活動

田川市消防団の活動は、1月の消防出初式に始まります。春秋の火災予防週間では、機械器具の点検、消防水利の点検、災害時要援護者把握のための訪問活動や、市民への注意喚起のためのサイレン吹鳴などを行っています。また、年末の歳末警戒や、毎月定期的に防火・防犯パトロールを実施し、防火活動だけではなく、夜間の地域防犯も担っています。また、地域の自主防災組織の訓練などにも積極的に参加を行っているところであります。

秋には団員が修得錬磨した消防技能訓練の成果を発表し、併せて実践火災防ぎょ活動に即応する技能を習熟させ、消防活動の向上に資することを目的とした、秋季錬成大会を実施しています。この大会ではガンガン落とし（標的である一斗缶を放水により落とす競技）や、操法、小隊訓練など、18分団対抗で競技を行い、互いに競争をする中で技術の修



秋の錬成大会がangan落とし

練を高めています。

また、消防署や近隣町村を含めた、田川地域全体での活動として、6月には対抗戦方式の水防訓練を実施しています。春秋には、共同で大規模訓練を行い、国・県の関係機関や、自衛隊、病院関係者、各市民団体等とともに、実戦形式の訓練を実施し、災害時に迅速に対応できるような訓練を行っています。

4 おわりに

田川市においては、近年、平成24年度北部九州を襲った豪雨以外は、大規模な災害は発生していませんが、今年度の、南九州での豪雨被害や、各地で発生する地震や噴火活動など、当市においてもいつ何時災害が発生するやもしれません。

今後も団員訓練を実施し、技術のスキルアップを図るとともに、消防署や近隣地区消防団との連携を強化し、「安全安心なまち田川」を目指して精進していきたいと思います。



消防本部と火災予防運動広報活動田川市マスコットタガタンと



シンフォニー（群馬県） 私と消防団活動

伊勢崎市消防団 第1方面隊 第12分団 団員
原田 瞳

私の住んでいる伊勢崎市は群馬県の南部に位置し、人口は約21万人、利根川をはさんで埼玉県に隣接している市です。冬はからっ風が強く、夏はたびたび猛暑日になりますが大きな災害もなく穏やかでとても住みやすいところです。

伊勢崎市消防団は、団員定数735人、1本部5方面隊45分団で構成されています。

私はその中の伊勢崎市第一方面隊第12分団に所属し、地域防災の要として、平常時や災害時を問わずその地域に密着し、地域の安心安全を守っています。出初式を一年の始めとし、春・秋の全国火災予

防運動に伴う火災予防広報、消防学校入校研修、交通安全講習会、ポンプ車操法大会、地域の防災訓練や、水防訓練、花火大会会場の警戒、秋季消防点検、歳末特別警戒など年間を通して男性団員と共に活動しています。また、実際に火災現場にも出動しています。

私は伊勢崎市の二人目の女性消防団員として平成17年に入団しました。私にとって消防団とは幼いころから消防団員として活動していた父の姿を見ていたので、憧れの存在でした。弟が先に入団した時にはただの憧れから、私も入団できない



かと考えるようになりました。実際に現場に出動する消防団員として入団した時はとても身が引き締まる思いでした。

最初は憧れや興味本位で入った消防団でしたが、活動をしていくうちにたくさんの方々との出会い、ふれあいながら様々な活動を経験し学ぶことができました。入団したての頃は、物珍しい様子で地域の方に見られていたのを思い出します。今となっては消防団活動がきっかけで、たくさんの地域の方々との交流するようになりました。

交流は地域の方々だけではありません。去年、参加させていただいた全国女性消防団活性化大会で出会った皆さんの活動力や元気さに驚かされました。私自身も決しておとなしい性格ではありませんが、女性ってこんなに元気なんだ！パワフルだなー！！と感心してしまったほどです。日本各地で様々な素敵な活動をしているんだなとたくさんの刺激をもらいました。

ほとんどの団員が家庭を持ち、仕事をしながらの活動なので時間が限られる中、また休日も勤務時間も団員によって違う状況の中で出来る時に出来る事をと家族や職場の協力を得て活動しています。

まだまだ私自身、駆け出しの消防団員ですが、分団の仲間・団長をはじめとする団本部の方々や消防署の方々などの指導や協力により少しずつですが成長している(?)のではないかと考えています。さらに一消防団員としての自覚を持ち訓練をできるだけ多く積み、少しでも役にたてるよう頑張りたいと思います。

それと同時に・・・消防団員が減少する中で、女性でも入団し活動できることをまだまだ知らない人はたくさん居ると思います。活動に当たって地域の方とふれあう中で、私のような消防団に入団する人が一人でも多くなることを願っています。





シンフォニー（岐阜県） 「女性消防団員として できることは・・・」

北方町消防団 団員
鳥本 千明

私たちのまち「北方町」は、岐阜県の南西部、濃尾平野の北部に位置し、林野もなく平坦な地形で、行政面積は5.17km²ですが人口は18,000人を超えており、岐阜県下において人口密度の最も高い町となっています。また、隣接する市町を含め名古屋市通勤圏となっているほか「子育てをしやすいまちランキング」では、全国7位にランクインされるなど、緑あふれる住環境の整った魅力あるまちです。

そんな北方町の女性消防団は、平成25年4月に発足したばかりで、現在は7人の団員が在籍しています。毎月の定例訓練での規律訓練などを通して消防団員としての基本を身につけるなど、日々勉強しているのが現状です。

消防団の活動として、火災・災害に備えて様々な訓練を実施していますが、女性消防団員は火災・災害現場への出動はありません。しかし、消防団活動をより深く知るため、土のう積み訓練に参加させていただきました。スコップで砂を土のう袋に詰める難しさや砂を詰めた土のう袋の重さ、その土のう袋がどんどん積まれていく現場を目の当たりにして、住民の命を守るために活動する消防団の重要性とその頼もしさを実感しているところです。

女性消防団員の活動としては、防火・防



災に関する啓発活動があります。そこで、消防署職員にご指導いただいて、普通救命や応急手当について学び、AEDの取扱い方や三角巾による止血方法などを習得して「いざというときは身近な人の適切な処置によって命を助けることができる」ことを住民の方に広く啓発していくための技術を磨いています。また、法改正による既設住宅への設置義務化から4年以上経過しながら、なかなか設置率が向上しない住宅用火災警報器についても勉強会を実施し、住宅用火災警報器の重要性を周知して設置の推進化

を図るため、効果的な啓発手段の検討に取り組んでいます。その一環として今年度は、3歳児検診の会場に向き、検診に来られたお母さん方を対象とした啓発活動を行います。昼間に家に居ることが多いお母さん方に普段からできる防火・防災に関する事例の紹介やいざというときの対応方法を知ってもらうことで、火災や災害時の初期対応を迅速に実施でき、地域の防火・防災力の向上に繋がるものと信じ、この啓発事業を継続していきけるよう頑張っていきたいです。

また、消防団事業の後方支援及び広報活動も女性消防団の重要な活動の一つです。消防団事業の後方支援として、毎年年初に開催される出初め式での受付や司会進行、表彰状授与の補助に加え、操法大会での選手応援など消防団活動の活性化に少しでも貢献できるよう女性団員全員で頑張っています。

広報活動は、近年全国的な課題として取り上げられている「消防団員の確保」に向けて、生涯学習センターが実施する親子向け講座「夏の防災教室」に参加し、消防団活動



について紹介する予定です。普段の生活においてはなかなか見かけることがない消防団について「どんな人達がやっているのか」「どんなことをしているのか」など、写真やスライドを使って分かりやすく解説し、消防車両や資機材を見てもらい、実際に体験してもらうことで、消防団を身近に感じてもらうと思います。そして、この講座を受講した子ども達の中から「将来、消防団に入りたい」と思ってくれる子が一人でもいたらうれしいです。

女性消防団として様々な活動をしていくには、まだまだ団員数が少ないので、女性消防団員の募集も積極的に行いながら、今後は、消防署と連携して、災害時に避難行動要支援者となることが想定される独居老人宅への訪問など、今私たちができる活動を確実に実施していきたいと思います。また、他市町村の女性消防団との交流を深めて先進的な事例を見学させてもらったりしながら、どうしても男性目線中心になりがちな防火・防災対策に女性ならではの視点で取り組み、安心・安全なまちづくりに寄与していきたいと思います。



少年消防クラブ交流会(全国大会)を初めて開催

(公財)日本消防協会

将来の地域防災の担い手である、青少年達を育成する目的のもと、総務省消防庁主催の少年消防クラブ交流会(全国大会)が、8月5日(水)～7日(金)の三日間、徳島県で行われ、全国の小中学生を対象に都道府県の45クラブ321名(指導者含む)が参加し、クラブ員の交流を図ると共に、消防技術を取り入れた訓練に取り組みました。

(公財)日本消防協会及び(一財)日本防火・防災協会も、今後の少年消防クラブ活動の一層の充実、全国の少年消防クラブの活性化につながることを期待し、全面的に協力いたしました。

一日目は、徳島グランヴィリオホテルにてオリエンテーション及びクラブ紹介が行われ、その後、本場の阿波踊りを体験しました。

二日目は、徳島県消防学校にて合同訓練が行われ、訓練終了後、美馬市都市公園うだつアリーナにおいて、避難所体験として段ボールハウスを作りました。

最終日では、地元消防団員の方々との交流等が行われた後、解散式にて少年消防クラブ交流会が終了となりました。

【概要】

1 クラブ対抗合同訓練

徳島県消防学校で実施した合同訓練では、ヨーロッパで行われている青少年消防オリンピックを参考に、日本流にアレンジした、2種類の競技(クラブ対抗リレー、クラブ対抗障害物競走)で各クラブが競い合いました。

大会は、徳島県、徳島県消防学校、徳島県消防協会等のご協力により、盛大に行われました。



大会会場全景



会場に到着するクラブ員



開会式



整列するクラブ員



選手宣誓する伊島少年消防隊 神野海斗さん

【クラブ対抗リレー】

1チーム5人で、陸上のトラックコースに設置された様々な障害(水消火器や消防ホースのボーリングなど)を突破しながら、バトンの代わりにホース先端につける筒先をリレーし、ゴールするまでのタイムを競うリレー競技。



ホース展張要領でボーリング



水消火器で的を倒す



障害物（ハードル）を越えて



バトン（筒先）を受けてホース延長

[クラブ対抗障害物競走]

同じく1チーム5人で、全長65メートルのフィールド上にある様々な障害（ハードルや平均台など）を突破しながら、5人で協力しホースを延長して、最後にロープ結索を行い、全員がゴールするまでのタイムを競う障害物競争。



全員でスタート



障害物（ハードル）を越えて



障害物（平均台）を越えて



協力してロープ結索を行う



手を挙げてゴール

訓練の結果、総合で1位から5位までが表彰を受けました。



第1位 三郷市少年消防クラブ



第2位 豊田市竜神中学校少年消防クラブ



第3位 高津ジュニアハイスクール消防隊



第4位 浦安市少年消防団



第5位 尼崎市立若草中学校少年消防クラブ

2 防災学習

クラブ員は、美馬市都市公園うだつアリーナで、段ボールハウスを自分たちで作製し宿泊するという避難所体験を通じて防災について学び、地元消防団員の方々から消防団に入った経緯や活動内容のお話をお聴きし、消防団について理解を深めていました。また、7月20日から25日の間、ポーランドにおいて実施されたヨーロッパ青少年消防オリンピックの活動報告が、出場した地元のうずしお少年少女消防クラブから行われました。



避難所体験（段ボールハウス作り）



地元消防団による災害活動報告



地元消防団員を囲んでの情報交換



ヨーロッパ青少年消防オリンピックの参加報告

4 阿波踊り体験

クラブ員は地元の方から阿波踊りをご指導いただき、鳴り物と呼ばれる笛や太鼓の演奏に合わせて、本場の阿波踊りを体験しました。



地元のグループによる阿波踊り披露



阿波踊りを体験するクラブ員

【終りに】

少年消防クラブ交流会は、徳島県、徳島県消防学校、徳島県消防協会、徳島県美馬市消防団、娯茶平連（阿波踊り）等、皆様方のご協力により盛大に開催することが出来ました。大変ありがとうございました。

「世界遺産を守る消防団～20年の誇り～」

岐阜県白川村消防団

1 白川村の紹介

白川村は岐阜県の西北部に位置し、人口約1,700人、急峻な山々に囲まれ、村の96%が山林、農耕地が0.4%という典型的な山村であり、白山国立公園や合掌造りをはじめとする数多くの自然、文化遺産に恵まれている。平成7年に世界文化遺産に登録された荻町合掌造り集落は、約150世帯、600人の住民が実際に生活しており、大小114棟の合掌造りがほぼ規則的に重圧感のある切妻屋根の妻側を南北に向けて建てられ、その周囲には水田、畑、水路、集落道及び背景の山林が農山村特有の景観を維持している。

2 白川村消防団の活動紹介

白川村消防団は、大正13年に現在の世界遺産合掌造り集落のある荻町地区に白川村消防組が結成され、昭和14年に警防団令の公布に伴いこれを白川村警防団と改称し、更に戦後の昭和22年に警防団を消防団と改称して現在に至る。団の構成は、条例定数165名に対し実員142名で、本部と3分団により組織される。平均年齢は36歳である(平成26年4月1日現在)。また、消防ポンプ自動車3台、積載車4台、軽積載車11台、小型動力ポンプ14台を配備している。



一斉放水全景

消防団の主な年間行事は、春と秋の火災予防運動のほか、火災想定演習や各世帯を巡視する火の元検査を年2回実施している。新団員への教育訓練は春と夏と秋の3回実施し、幹部への教育訓練は3月に実施している。また、夏には世界遺産合掌造り集落を所管する中部分団が花火夜警を実施している。秋には村のどぶろく祭りによる祭礼特別警戒を実施している。その他、9月から11月にかけて消火栓取扱指導を各地域において実施し、12月には年末夜警を行っている。

3 花火の警戒

世界遺産合掌造り集落がある荻町地区では、過去に打ち上げ花火が合掌造り屋根に飛び込み火災が発生したことから、花火の

使用は、例え線香花火でもご遠慮していただくよう自主的に規制している。これにより、夏休みシーズンの観光客が大勢訪れる期間、所管する中部分団が花火夜警として巡回し、ご理解いただけるよう呼び掛けている。なお、萩町地区では花火だけではなく、たき火も禁止している。



一斉放水

4 合掌造り家屋を火災から守る放水銃

萩町合掌造り集落では、昭和46年に、地域内の資源を「売らない」「貸さない」「壊さない」の3原則を掲げ、「白川郷萩町集落の自然環境を守る会」を全住民の総意で発足、保存活動を展開し始めた。これらの保存活動が認められ、昭和51年に国の重要伝統的建造物保存地区に選定され、平成7年には世界遺産に登録される。

合掌造りの家屋は、火に非常に弱く、1軒でも出火した場合、飛び火により集落全体が焼失してしまう恐れがあることから、萩町合掌造り集落に65ミリ消火栓放水銃が59基設置された。この放水銃は360度回転する構造で、景観を損なうことのないよう収納箱の屋根を合掌造り風に製作されている。水源は600トンの貯水槽で約80メートルの高低差を利用した自然流下式、高さ30メートル余りまで放水が可能である。放水銃は、合掌造り家屋1軒に1基の放水銃が設置されている。そして、茅葺きの中に火が入ると消火するのが困難なため、放水銃は消火するためではなく、主に周辺家屋からの類火を防ぐために使用されている。また、火災を発見した住民が即座に操作することが望ましいことから、毎年1回、住民が主体となって放水点検と訓練を兼ねた一斉放水を実施している。

5 火の用心

萩町合掌造り集落では、1日4回火の用心の巡回を毎日行っている。1回目は「火の番」といって午前10時頃に各地域を巡回する。次は「夜回り」といって夕方と夜に、「火の番」同様に地域を巡回する。「火の番」と夕方の「夜回り」のときは拍子木を打ちながら、「火の用心大事にしておくれ」と注意を呼びかけて巡回する。夜間の「夜回り」の際には錫杖の引きずり音を立てながら、声を掛けて回る。最後は深夜11時から約1時間かけて、萩町合掌造り集落全体を巡回する「大回り」がある。大廻りは、2人1組で拍子木を打ちながら、集落の端々6カ所に備え付けてある印鑑を箱から取出し、手帳に押し一巡したことを証明し、次の当番の家に渡すという念の入った巡回である。



放水銃

「全国消防殉職者遺族会理事会」を開催

全国消防殉職者遺族会

平成27年9月9日(水)午前11時から、日本消防会館5階第2会議室で「全国消防殉職者遺族会理事会」が開催されました。

◇平成27年度第1回理事会

1 議事

第1号議案 平成26年度事業報告及び決算について

2 報告事項

- (1) 第34回全国消防殉職者慰霊祭について
- (2) 公益財団法人消防育英会奨学金給付基準の改正について

議事について説明が行われ、承認されました。

理事会の閉会后、屋上の全国消防殉職者慰霊碑を参拝しました。



第44回全国消防救助技術大会について

(一財)全国消防協会

1 はじめに

一般財団法人全国消防協会では、去る8月29日に神戸市の神戸学院大学ポートアイランドキャンパス及び神戸市立ポートアイランドスポーツセンターにおいて、全国の消防救助隊員が集い、力を集結して人命救助に立ち向かう思いと、阪神・淡路大震災から20年が経過した神戸市が震災のことを「決して忘れず」、様々な取り組みを行い「復興への歩み」を進めてきたこと、そして復興から「新たなステージへ」向けて進み出していることを発信するため「NEVER FORGET, GO FORWARD ~新たなステージへ~」をスローガンに第44回全国消防救助技術大会を、多くの来賓と市民をお迎えし盛大に挙行了しました。

この大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素の練磨を通じて、消防救助活動



高橋会長

に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、全国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的として毎年開催しており44回を数えるに至りました。

昨年の千葉大会は、広島市で発生した大規模土砂災害の影響で中止としたため、2年ぶりの開催となりました。

2 大会を振り返って

平成16年の第33回大会が開催されて以来、11年ぶり3回目の大会開催となる神戸市は、シンボルであるポートタワーがたたずむ神戸港をはじめ日本を代表する国際港都として発展してきました。また、旧居留地や北野異人館などの異国情緒あふれる空間や、大都市という面だけではなく、山や海に囲まれ、自然が豊かであることも神戸市の特徴です。その美しい港町を神戸市消防局では市民の安全を守り安心を支えるため、全



大会シンボル

職員が一丸となって消防行政を強力に推進しています。

今大会は神戸市街地から交通アクセスのよい、神戸学院大学に協力いただき、全国初の試みでもある地域大学と連携して大学キャンパス内で開催されました。

さて、大会当日は、一般見学者や消防関係者など約18,000名で埋め尽くされた会場内は、開会式前から熱気と興奮に包まれていました。

午前8時55分、神戸市消防音楽隊の軽快な演奏に合わせ、国際消防救助隊、緊急消防援助隊をはじめ、全国9地区支部から選抜された984名の精鋭たちが堂々と入場し、開催地消防長である岡田神戸市消防局長、水上の部にあっては、堀場名古屋市消防長の開会宣言で大会の幕は開きました。

開会式ではまず、消防使命達成のため殉職された消防職員の御霊に対して黙とうを捧げました。続いて国旗・大会旗掲揚の後には、大会会長である高橋全国消防協会会長のあいさつ、開催地である久元神戸市長のあいさつ、佐々木消防庁長官、秋本日本消防協会会長、井戸兵庫県知事、守屋神戸市会議長の祝辞と続き、大会審判長の川本北九州市消防局長による審判長指示が行われました。その後、出場隊員を代表して陸上の部は神戸市消防局の広内隊員、水上の部は神戸市消防局の西別府隊員が力強く隊員宣誓



陸上の部



水上の部



技術訓練 (陸上の部)

を行いました。

陸上会場の開会式終了後のオープニングセレモニーや、水上会場でのハーフタイムショーでは、一般財団法人日伯協会のサンパチムによる、華やかで素晴らしいパフォーマンスが披露され会場は大いに盛り上がりました。

いよいよ訓練の幕開けです。厳しい地区大会を勝ち抜いた精鋭たちの眼光是鋭さを増し、訓練に臨みます。人命救助のプロとしての誇りと絶対に負けない救助魂を胸に、鍛え抜かれた屈強な体で磨き抜かれた救助技術を次々と披露する隊員の姿に、観覧席からは歓声や激励、また消防に寄せる期待の拍手が鳴り止みませんでした。

訓練の締めくくりは、技術訓練。陸上の部では、兵庫県下合同救助隊が「震災に伴う救助活動」をテーマに、水上の部では和歌山市消防局が「状況変化に対応した救助活動」をテーマに、創意工夫を凝らした救

助技術を披露しました。会場で技術訓練を見守る隊員の眼差しも、細部にわたるまで吸収しようとする姿が感じられました。

また、全国消防救助技術大会と同時に開催した市民イベントでは、防災体験イベント「イザ!カエルキャラバン!」を実施しました。約20種類の防災体験プログラムを準備し、参加された親子からは、防災体験イベントを通じて、楽しみながら防災についての知識が深まり、防災に対する関心が高まったとの声が多く聞かれ大好評でした。

閉会式では、各種目の入賞者を高橋大会会長が表彰し、「陸上の部、水上の部でそれぞれの隊員の皆さんが日頃から鍛え抜かれた気力、体力及び磨き上げた救助技術を遺憾なく発揮し、それぞれ素晴らしい成果をおさめられた。本大会で示された優れた消防救助技術が将来にわたり永く伝承されていくことを期待する。隊員の皆さんにおかれては、本日までの訓練成果を災害現場

でも十分に発揮され、今後も消防救助技術の更なる向上に努められ、消防に対する地域住民の負託に一層応えられることを切に希望する。」との講評がありました。

国旗降納に続いて、大会旗が岡田神戸市消防局長から次期開催地の芳野松山市消防局長に引き継がれ、芳野松山市消防局長が次期開催地としてあいさつしました。最後に、岡田神戸市消防局長が閉会を宣言し、第44回全国消防救助技術大会は幕を下ろしました。

3 終わりに

残暑が続く中、秋本日本消防協会会長をはじめ、多くの来賓と市民の皆様にご来場いただき、成功裏に大会を終えることができました。この誌面をお借りしてお礼申し上げます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



技術訓練（水上の部）



オープニングセレモニー（陸上の部）



市民参加イベント

e-カレッジによる防災・危機管理教育のお知らせ

総務省消防庁地域防災室

「防災・危機管理 e-カレッジ」は、その名前のとおり、防災の知識や災害時の危機管理について、いつでも、誰でも、無料で学習できるインターネット上のサイトです。

防災業務に携わる方だけでなく、広く住民の方にも災害への認識や必要な知識、技術を習得できるよう様々な内容から構成されています。

昨年度は以下のコンテンツを新たに追加しています。

- ①「消防団員のための教育用教材」
- ②「分団指揮課程事前学習課題教材」

また、スマートフォンからの閲覧にも対応していますのでぜひ下記 URL にアクセスしてみてください。

<http://open.fdma.go.jp/e-college/>



問合わせ先
消防庁国民保護・防災部地域防災室 山野、荒木
TEL: 03-5253-7561

事業所の消防団活動への理解・協力について

総務省消防庁地域防災室

○消防団について

消防団は、「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、地域で発生した火災に対応するだけでなく、東日本大震災をはじめ、大規模な自然災害でも、住民の避難誘導や救助活動などに献身的に従事し、その活動は高く評価され、地域の不可欠な存在であり、地域防災の中核を担っています。

しかしながら、過疎化、少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、消防団員数は年々減少し続けており、平成27年4月1日現在（速報値）で、約85万9,900人となっており、10年前の平成17年4月1日の約90万8,000人に比べ、約4万8,000人減少し、地域における防災力の低下が懸念されています。

○消防団活動には事業所の協力が重要

消防団員に占める被雇用者団員の割合は、平成27年4月1日現在（速報値）で、10年前の平成17年4月1日現在の69.8%に比べ2.7ポイント増加し、72.5%となっており、消防団員の被雇用者の割合が高い水準で推移しています。

このため、消防団活動を維持していくためには、事業所の消防団への理解や協力が非常に重要となっております。

○消防団協力事業所制度について

消防庁では、平成18年度から消防団活動に協力している事業所を顕彰する「消防団協力事業所表示制度」を設け、市町村等における導入の促進を図っています。特別の休暇制度を設けて勤務時間中の消防団活動に便宜を図ったり、従業員の入団を積極的に推進する等の協力は、地域の防災体制の充実に資すると同時に、事業所が地域社会の構成員として防災に貢献する取組であり、当該事業所の信頼の向上につながるものです。

平成27年4月1日現在、47都道府県の1,156市町村で本制度を導入済であり、消防団協力事業所数は1万1,446事業所となっています。

本制度を未導入の市町村におかれましては、本制度の趣旨を御理解いただき早急に導入していただきますようお願いいたします。

○消防庁の取組

消防庁では、

- ・消防団協力事業所制度未導入市町村への制度導入の働きかけ

- ・消防団協力事業所に対する入札における優遇や税制優遇の全国への普及推進の働きかけ
- ・従業員の入団を積極的に推進するなど、消防団活動に特に深い理解があり、協力度の高い事業所に対する表彰
- ・消防団と事業所の連携・協力の優良事例の紹介
- ・経済団体等への働きかけ（従業員の入団促進や、勤務時間中の消防団活動への便宜・配慮などについて依頼）

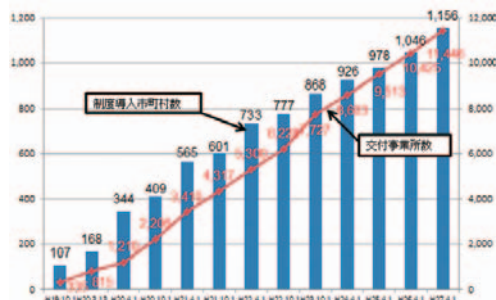
などを実施し、事業所の消防団活動に対する理解・協力を求めています。

○地域で消防団を応援する事例

全国では、地域で消防団を応援する取組が行われているところがあります。

松山市では、地域のために活動する消防団員を社会全体で応援しようということで、IC機能付きの消防団員証を市内の応援事業所で呈示すると、割引等の優遇措置を受けることができるシステムを平成24年4月に導入しました。また、消防団員はもとより、日頃から消防団活動に対して理解いただいているご家族などの同伴者についても割引を受けられます。現在の応援事業所数は、飲食店を中心に244店舗と増加しています。消防団員からは、士気が高まった、との声が聴かれるとのことです。

今後も、消防団活動について一層の御理解・御協力をお願いいたします。



地元消防団による災害活動報告

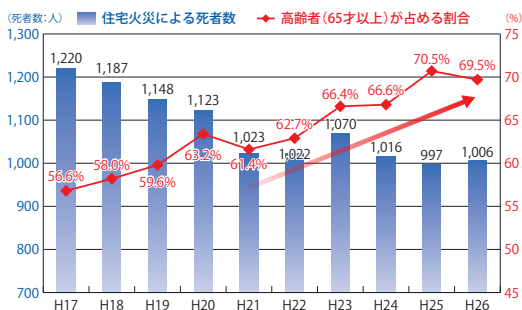
問い合わせ先 消防庁国民保護・防災部 地域防災室 消防団係
山下、橋本 TEL: 03-5253-7561

敬老の日に「火の用心」の贈り物 「住宅防火・防災キャンペーン」

総務省消防庁予防課

日本における住宅火災による死者数は1,000人前後の高い水準で推移しており、このうち65歳以上の高齢者が7割を占めています（下図参照）。

住宅火災における死者数の推移（平成17年から平成26年の10年間）



高齢化の進展とともに、住宅火災による死者のうち高齢者の占める割合が増加していることから、消防庁では、「敬老の日に『火の用心』の贈り物」をキャッチフレーズに、高齢者に住宅用火災警報器等をプレゼントすること等呼びかける「住宅防火・防災キャンペーン」（キャンペーン期間：9月1日～21日）を実施します。

このキャンペーンは、火災の犠牲者の中でも、特に高齢者の方達の被害を減らすことを目的に、9月の「敬老の日」に、お子さんやお孫さんから高齢者に「住宅用火災警報器」や「住宅用消火器」または「防災品」等をプレゼントしたり、高齢者宅に設置してある住宅用火災警報器の作動確認や、寝たばこやストーブ・ガスこんろの使用法などへの注意喚起を呼びかけることを推進するものです。



○ 高齢者を住宅火災から守るためには

(1) 早く知る！

住宅火災で死者が発生する要因のうち多いのは、発見が遅れ、気づいた時は火煙が回り、既に逃げ道がなかったと思われる事例です。

このようなことを防ぎ、火災の発生を早く知るために、現在、各自治体の火災予防条例で寝室や階段等に「住宅用火災警報器」を設置することが定められています。

この「住宅用火災警報器」は電池切れや故障の際には警報音が鳴りますが、長期間不在にした場合などは、電池切れや故障等の発生に気がつかないことも考えられますので、定期的な点検が必要です。

是非この機会に高齢者のお宅に設置されている「住宅用火災警報器」を、代わりに点検してあげましょう。

(2) 早く消す！

火災が発生したときに消火器で初期消火を行うことは、被害を最小限に食い止めるためにも非常に重要です。

ただ、「消火器」というと、「大きいから置く場所がない」とか、「重くて火事の時にうまく使えるか不安」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

しかし、消火器には小さくて軽い「住宅用消火器」や、スプレー式で高齢者や女性でも扱いやすい「エアゾール式簡易消火具」といったものも販売されています。

特に高齢者がおられるご家庭には、このような器具を備えておくことをお勧めします。



(3) 火を拡大させない！

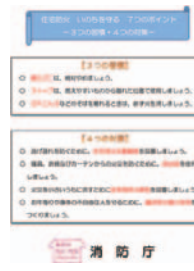
死者が発生した住宅火災で、最も多い出火原因は、たばこによるものです。なかでも寝たばこにより発生した火災で多くの死者が発生しています。また、調理中の着衣着火により亡くなる高齢者もおられます。このような火災による死者を減らすため、パジャマやエプロンといった衣類や枕・布団などの寝具に燃えにくく作られた「防災品」を使用することをお勧めしています。



また、カーテンやじゅうたんなども「防災品」であれば、万が一火災が発生しても、急激に火災が拡大するのを防ぐことができます。車やバイクのボディカバーなども同様に「防災品」を使用することが、放火による火災の拡大防止に大変有効です。

消防庁では、これらに加え「火災を起こさない」3つの習慣などを含めた「住宅防火 いのちを守る7つのポイント」をお示ししています。

大好きな“おじいちゃん”や“おばあちゃん”が火災の被害に遭わないように、今年の「敬老の日」は、家の防火対策を考える「敬老の日」にしてみませんか？



【キャンペーンポスター】住宅防火 いのちを守る7つのポイント

問い合わせ先
消防庁予防課予防係 小富士、齋藤、森野
TEL: 03-5253-7523

2016年度「全国統一防火標語」の募集について

総務省消防庁予防課

消防庁では、家庭や職場・地域における防火意識の高揚を図ることを目的として、9月14日(月)から一般社団法人 日本損害保険協会と共催で2016年度の「全国統一防火標語」を募集します。

入選作品は「全国統一防火標語」として、消防庁の後援により同協会が作成する約20万枚の防火ポスターに採用され、全国の消防署をはじめとする公共機関等に掲示されるほか、防火意識の啓発・PR等に活用されます。

1966年度の募集から数えて、今回で51回目を迎えます。毎年多数の応募があり、2015年度の募集では全国から28,642点の作品が寄せられました。

消防庁の統計によると、2014年中の火災発生件数は43,741件で、前年より4,354件(9.1%)減少している一方で、総死者数は1,678人と、前年より53人(3.3%)増加しています。また、火災発生件数を出火原因別にみると、たばこ・こんろ・たき火などの火の不始末など、日常生活での不注意が招いた火災が上位を占めています。

火災の恐ろしさ、防火の大切さ、防火のポイントや手法などを簡潔に表現した斬新な作品をお待ちしています。



2015年度防火ポスターモデル
松岡 茉優さん

【募集期間】

2015年9月14日(月)から11月30日(月)

【応募方法】

WEB(一般社団法人 日本損害保険協会ホームページ)より応募

応募先URL：<http://www.boukahyougo.jp>

【発表】

2016年3月下旬に、一般社団法人 日本損害保険協会ホームページで、入選・佳作作品および入選・佳作入賞者を発表

※詳細は、募集要項(<http://www.boukahyougo.jp>)をご覧ください。

危険物施設等における事故防止について

総務省消防庁危険物保安室

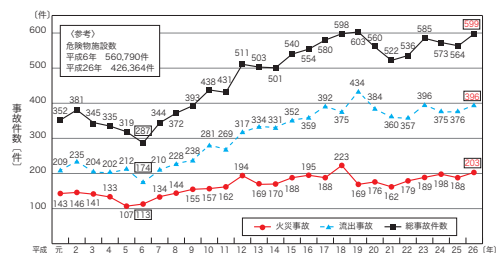
○平成26年中の危険物施設における事故件

先般、消防庁では、平成26年中に全国で発生した危険物に係る火災及び流出事故の概要を取りまとめました。

平成26年中の事故発生件数は599件であり、前年に比べて35件増加しました。事故発生件数は高い水準で推移しており、平成元年以降、事故が最も少なかった平成6年と比べると、危険物施設数は減少しているにもかかわらず、事故発生件数は約2倍に増加しています。

このような状況を踏まえ、近年消防庁では、関係省庁と連携し、平成26年5月に石油コンビナート等における災害防止対策検討関係省庁連絡会議の検討結果に基づき取りまとめられた同連絡会議報告書(以下「報告書」という。)や、危険物等事故防止安全憲章(以下「安全憲章」という。)に掲げた項目等について、積極的に取り組むように働きかけています。

危険物施設における火災及び流出事故発生件数の推移



※事故発生件数の年別の傾向を把握するために、東日本大震災その他震度6弱以上(平成8年9月以前は震度6以上)の地震により発生した件数を除いています。

○平成27年度危険物事故防止アクションプラン

消防庁では、事故防止対策の取組の一環として、危険物関係業界団体、消防関係行政機関等で構成された「危険物等事故防止対策情報連絡会」を開催し、「平成27年度危険物事故防止アクションプラン」(以下「アクションプラン」という。)を取りまとめました。

危険物施設等における事故防止を図るため、アクションプランに基づく官民一体となった事故防止対策の自主的、積極的な推進をお願い致します。

<危険物事故防止に関する重点項目>

危険物施設における事故による死傷者の絶無を図り、かつ、事故件数を減少させるためには、「業種を超えた事故の情報の共有」を図るとともに、事業者が安全憲章及び報告書の内容や東日本大震災の状況を踏まえ、自らの事態、体制等に応じた安全確保方策を確立することが重要です。

このようなことに鑑み、次の事項を重点として事故防

止対策を講ずる必要があります。

1 保安教育の充実による人材育成・技術の伝承

装置の設計思想及びマニュアルの手順の背景にある原理原則の理解(know-why)の促進によるリスクアセスメントや、リスクに気づく感性のある人材、事故を見据えた設備等の定期点検及び日常点検を行う人材、安全推進の中核となる人材等を計画的に育成するため、保安教育を充実させるとともに、保安に関する知識・技術の伝承を徹底するため、過去の事故事例や良好事例の共有、実効性が見込まれるそれらの活用方策の確立、その他火災等の模擬体験、外部機関を活用した教育等を行うこと。

2 想定される全てのリスクに対する適時・適切な取組

社内外の事故情報や安全対策情報を収集し保安対策に活用するとともに、コミュニケーションや情報共有を通じて、運転部門、保全部門、設計部門等の各部門間における連携を強化することにより、適時・適切な運転、保全等を図ること。

また、現場における適切な安全管理の枠組の構築、さらには、非定常作業時、設備等の経年劣化も踏まえた点検、整備時等をも想定したリスクアセスメントを適時徹底して行い、リスクに対して適切に対応するとともに、残存リスクの認識とそれらに対する適切なマニュアルや体制を整備し、危険物の流出事故等を未然に防ぐこと。

3 企業全体の安全確保に向けた体制作り

経営層が協力会社も含めた現場とのコミュニケーションを強化し、現場作業からの情報を積極的に収集するとともに、保安に対する強い意識を持ち、安全優先の方針を社内に発信することにより、現場で必要とされる安全確保方策が適切に実施される体制を整備すること。

また、ヒヤリハット事例等の検討、必要に応じて第三者による客観的な評価や社外との情報交換等を活用することにより、多角的かつ継続的に安全確保方策の充実を努めること。

4 地震・津波対策の推進

地震想定や津波想定を踏まえたハード面及びソフト面双方における地震・津波対策の再検証を行うとともに、被害を最小限にするため、また、被害の確認・応急措置、臨時的な対応、復旧対応等を適切に実施することができよう、平常時から、事前計画の作成や訓練等を通じた習熟度の向上を図ること。

問い合わせ先 消防庁危険物保安室 清水、水野
TEL: 03-5253-7524

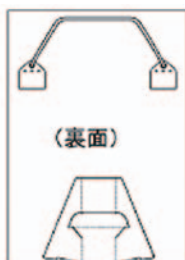
消防団協力事業所表示証(市町村マーク)を販売

(公財)日本消防協会

総務省消防庁が定めた「消防団協力事業所表示制度」に基づき、各市町村では要綱を定め、消防団協力事業所を表彰し、その表示証「市町村マーク」を交付することとされました。

日本消防協会では、消防庁が定めた規格による表示証を、次のとおり販売します。

お申込み方法は、ホームページからダウンロードした購入申込書に必要事項をご記入の上、当協会までFAXまたはご郵送でお申込み下さい。



A
穴無しタイプ
(付属品含む)
壁掛け・立て掛けタイプ
本体価格
1枚●¥2,400 (税抜き)



B
四つ穴タイプ
(付属品含む)
壁面ボルト止めタイプ
本体価格
1枚●¥2,400 (税抜き)

※表示価格に消費税は含まれておりません。また、送料は別途請求させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

公益財団法人
日本消防協会

〒105-001 東京都港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館

TEL●03-3503-1481/FAX●03-3503-1480

URL●<http://www.nissho.or.jp>

上記のホームページから購入申込書をダウンロードしてお使いください。

うちの

名物団員



甘楽町消防団 第三分団 分団長

中里 泰明



甘楽北部の田園地帯に、(有)中里春風の軽トラを颯爽と運転する社長の姿があります。第三分団長の中里さんは、2代目社長として、農作業受託を行いながら、自らも米麦を生産し、地域農業の担い手としてガンバル姿は、まさに「田んぼの仕事人」です。小学校の米作り体験教室では、15年間で延べ600人以上の子供たちに米作りを伝授し、未来の担い手を育てています。

趣味は登山とスキーで、田舎と人と酒(カラオケも上手い)をこよなく愛する第三分団長は、様々な地域活動に参加する「地域盛り上げ隊」です。

「こんな時代だからこそ、人と人とのコミュニケーションが大事」と信念を掲げ、日々、地域活動や消防団活動に奔走しています。

富岡市消防団 副団長

佐々木 伸

サラリーマンが多い消防団員の中で、地元で仕事をしている団員は昼間の貴重な戦力です。富岡市の佐々木副団長も、自営業の酒屋を営む傍らいつも災害現場にいち早く駆けつけています。持ち前の明るい性格と責任感の強さで、地域住民はもとより、部下の団員からも信頼される人気者の副団長です。

また、佐々木副団長はユニークなアイデアマンで、本業の酒屋に加えて世界文化遺産に登録された富岡製糸場の象徴赤煉瓦をモチーフにしたお菓子「赤レンガ姫」を発案し、群馬県のグッドデザイン商品の選定を受けました。土産品として大人気です。富岡製糸場を訪れた際は是非ご賞味下さい。



葛西消防団 第六分団 分団長

倉内 皓子



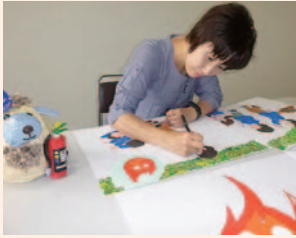
葛西消防団で唯一の女性分団長である倉内分団長。なんと調理師の資格を持ち、「体と環境とお財布に優しい料理教室」をコンセプトに、地域で大人気の料理教室を開いて10年になります！

料理教室で磨いた発想力や指導力を発揮し、消防団では地域住民へ防火防災意識の向上や応急手当の普及等、わかりやすく親しみやすい指導を行っています。優しい笑顔と真剣な眼差しで分団を牽引し、地域に根差した消防団、そして安全・安心なまち葛西を目指して日々活躍中です！

群馬県

東京都

野原 祐美



「鉄とランの街」愛知県東海市から、女性消防団員の野原祐美さんをご紹介します。

野原さんの趣味は、人形作りや絵を書くことです。これまで、市販の教材を使って幼児向け防災教育を行ってきましたが、野原さんから「手作りで紙芝居(教材)を作ります。」の申し出があり、そのスキルを活かして、幼児向けの防災紙芝居を作成中です。その物語、登場人物、作画の全てがオリジナルです。今秋の完成を目指して奮闘中！みんな完成を楽しみにしています！



高津 直行 山崎 公浩



「今度の操法訓練大会が終了したら、バイクでB級グルメを食べ、ツーリングに行こう！」これが、「クラブ」結成のきっかけとなり、その「クラブ」から、バイクも団活動も大好き！という2人、里庄町消防団第9部所属の高津直行団員と山崎公浩団員を紹介します。2人は、日帰り圏内ならどこでも、グルメを求めてツーリング！

「噂のカレー」を求めても、ライス切れ！だったり、マスターの腰痛！のため臨時店休だったり、なかなか食せていないカレーがあるそうです。まだまだ小話がありますが、このツーリングが、部員同士をよく理解し合うことができるツールであり、団全体の活性化に繋がっています。

榎並 好美



きりっとした目つきで、狩衣がよく似合う榎並副団長は、石鎚本教田川教会の宮司をしています。榎並副団長のほら貝の音色を聴くと、自然と落ち着いた気持ちになります。

気さくな人柄で、多くの仲間に慕われている榎並副団長ですが、災害が発生すると、一番に現場に出勤し活動します。

また、息子さん2人も消防団員であり、これからも親子3人で田川市を見守ってくれることでしょう。

坂下 仁美



毎年1万羽の鶴の飛来地で有名な出水市からは、坂下仁美さんをご紹介します。

分団長まで務めた父の背中を見て育った坂下仁美さんは、夫婦で、また実の兄とともに現役の団員です。

地元ではバンドを組み、そのボーカルを任せられるほどの実力者。消防団活動の一つである寸劇では、その力を生かし、自作の曲を弾き語りで会場を盛り上げます。

ボランティア精神旺盛で、彼女の存在は周りにいる人を元気にするほどパワーに満ち溢れる女性団員です。



瀬戸市消防団 深川分団
分団長
松原 良樹



瀬戸市は、愛知県尾張地方の東部に位置し、人口は約130,000人、面積は111.4km²で管内の半分以上を山林が占めるなど、緑豊かな自然に囲まれた1,300年の歴史を持つ「やきもの」の町として、これまで発展してきました。

本市の消防団は、現在、1団本部3方面隊12分団で構成されていますが、これまで取り組んできた様々な消防団員確保対策により、平成27年8月1日現在で消防団員数は、262名（条例定数268名）となっており、全国的に消防団員数が減少している中、本市の消防団員数は近年、微増となっている状況です。

そして、私が分団長を務める深川分団は瀬戸市の代表として、平成27年8月8日（土）に愛知県豊川市で開催される第60回愛知県消防操法大会に出場することとなりました。選手の中には、本市で初となる女性消防団員



訓練風景



激励会

が1番員を務めることとなり、分団長として心配する部分もありましたが、分団員が一丸となり優勝を目指して訓練に励んでいます。今後は、訓練で培った技術やチームワークを生かし、消防団活動に役立てていきたいと考えています。

▼ 消防団加入促進に係る瀬戸市のこれまでの取り組み

- ◎ 消防団ラッパ隊発足（平成15年12月）
- ◎ 赤バイ隊の発足（平成17年2月）
- ◎ 女性消防団員の任用（平成17年3月）
- ◎ 災害支援団員（OB団員）の任用（平成18年2月）
- ◎ 消防団応援事業所制度の創設（平成22年10月）
- ◎ 消防団応援サポーター制度の創設（平成25年12月）
- ◎ 瀬戸市消防団大学生等活動認証制度の創設（平成27年5月）

平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

10月の日本消防協会関係行事

10月15日(木)

第22回全国女性消防操法大会

10月29日(木)

第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会

編集後記

平成27年度も半年がたち、4月に転勤したり、職場を替られた方も周りの環境になじみ、自分自身の成長や変化を実感している頃だと思えます。そして、この夏、地元に帰り、家族や親戚に会い、昔からの友人と交友を深めた方も多かったことでしょう。人と人の関係は不思議なほど変わらず、ほっとした気持ちになります。私も、ふるさとで人間関係の大切さをしみじみ実感したものでした。

さて、9月に入り、記録的な豪雨による大雨洪水災害が各地で発生しております。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。昔に比べ、防災対策や災害関連情報の収集が格段に進歩した時代ですが、異常気象の頻度や規模がこれまでの経験を超え、社会経済環境の変化とも相まって、災害が複合・複雑化しております。いつでも、どこでも、なんでも起こりうる覚悟で災害に備え、国民ひとりひとりが「命を守る行動」を身につけることの重要性をあらためて認識しております。

来月から平成27年度も後半に入りますが、いろいろな思いを胸にそれぞれの職場で頑張りましょう。
(M.M)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十八巻第九号
平成二十七年九月五日印刷
平成二十七年九月十日発行

編集人 武居 丈二

発行所 (公財)日本消防協会
東京都港区虎ノ門二丁目一十六
電話 〇三(353)一四八二(代)

印刷所
千葉市稲毛区山王町一〇二一五
株式会社白樺写真工芸
電話 〇四三(423)一一〇一(代)

消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員・消防職員
ならどなたでも
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い **1500倍補償**

B型火災共済 (消防団 消防本部) 毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%) + 配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円(ゆうちょ
銀行は五千円)から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金(6種類)又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金(脱退一時金)
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00